

子どもを非行化させない接し方 ～法に触れた子どもたちの特徴を通して 家庭教育の在り方を考える～

特性を知る

<子どもの困り感>

- 「自分の困りごとをどのように表現して良いかわからない」
- 「どこまで困っていて、どこからはやれないのか、口頭で伝えることが難しい」
- ※困った時の表現の未熟さ→自分でうまく伝えられず、教師にも気づかれないためにイライラする。
- 周りから誤解されやすい。
- ※文字を書くのにつかれる子ども→ノートをとることの疲労度の差が学力の差にもなりやすい。

<思春期の特性>

- 論理的・合理的になる。
- 発信元が権威よりも正しく考えられているかが重要
- 論理で押せるようになった子どもは、権威で押し返す大人とかみ合わない。

育てたい力

<立ち直るための力>

- 成長する力
- チャンスと出会う力
- 人と出会う力

<求めていること>

- 「感謝されたい」
- 「一生懸命になれるものが欲しい」
- 「親しい仲間として認められたい」

<自己を見つめる>

- ひとまず言い分を言ってみる。※最後まで口を挟まない。
- 自分自身の気持ちの整理する。
- 冷静に自分を見つめられる状態にする。
- 過去ではなく、未来を考える。
- 課題を小分けにして考える。

※教育講演会からの抜粋
日時：令和2年1月30（木）
会場：天満町公民館
講師：前里光作
法務省長崎
少年鑑別所首席専門官
主催：バスターミナル学習室
(子供の未来応援基金)

自己肯定感を高める見方・接し方

<OKと言われることが多い子ども>

→ダメ出しにも耐えられる。

<NOと言われることが多い子ども>

→ダメ出しにすぐにあきらめる。

※「ありがとう」
「頑張ったね」
「頑張れ」「好き」優しいね

<具体的にやれること>

- 責任が持てる仕事を任せる。
- ほめる<喜ぶ>感謝する
- 相性の良い人を中心に関わる。

<基本的な接し方>

- 自分の感情（怒りや不満等）に気付き、気持ちが落ち着くまで接しない。
- できたことではなく、なぜできたのかを尋ねることで、肯定的に見る意識がもつ。



<状況に応じた接し方>

○困った子、困らせる子

→困っている子

※関わる者が否定的な見方をせず、援助したい気持ちで接する。

○挨拶をする

→肯定的な声掛け

※好ましい行動に注目

○屁理屈

→軽く流す

※こだわりにこだわらない。

○危険な行動、他者への暴力

→制限する、警告する。

○何度も口で言う。

→壁に紙を貼る。

※見えるものがかり易い。

○環境を変えない。変えるときは予定を伝える。

※変化に対して不安がある。

○宿題はわかる、休み時間はこまめに

※短い集中力



不適切な行動をなくすより、適切な行動を増やす！